

令和5年度（2023年度）大分大学グローバル感染症研究センター 共同研究公募要項

大分大学グローバル感染症研究センター

大分大学グローバル感染症研究センターは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大など、地球規模での感染症対策が喫緊の課題となる中、国境・県境を越えたグローバル（グローバル/ローカル）な感染症に対峙できる研究活動と医療人材育成を行う全国共同研究利用施設として国内外の大学、研究機関、国際機関と連携した研究教育活動を推進することを目指し、令和3年10月に設置されました。

本センターでは、国内外の研究機関と連携しながら、病原微生物による感染病態の解析やゲノム解析、マイクロバイオーム研究、さらに本学の強みである創薬も含めた基礎研究から臨床までの一連の領域をシームレスに連携させることにより、感染症に関する国際的かつ地域中核での研究プラットフォームの構築を目指しています。

この度、本センターの研究目的の趣旨に沿うべく、以下の要領で共同研究事業を公募します。

1. 公募概要

(1) 募集区分

A) 共同研究課題及び B) シーズ発掘課題の2つの区分で募集を行います。いずれも、本学が有する有形・無形の資産を活用して各区分で定めるテーマに沿った研究課題を申請者（代表研究者）が設定し、研究代表者及び研究分担者が本センター担当教員と協力して実施する共同研究を募集します。

A) 共同研究課題（申請上限額：100万円/年・件）

別紙1に掲げる本センターの研究テーマについて、センターの教員と協力して実施するもの。特に、国際的・学術的に重要な研究領域で、本センターが戦略的に実施するものについては、重点的に支援します。

研究期間：最長3年間（各年度の公募時に継続申請が必要）

B) シーズ発掘課題（申請上限額：30万円/年・件）

感染症に関する研究の裾野を広げ、共同研究を促進し、研究ネットワークの拡大を図るために、センター教員と連携し、新たな着想に基づく研究課題を実施するもの。

テーマについては各教員と相談し、決定してください。

研究期間：最長2年間（2年目の公募時に継続申請が必要）

※1 過年度からの継続課題の場合、過年度と同じ募集課題での応募となります。

※2 令和5年度においては、原則として令和6年（2024年）2月末日までに経費執行してください。

(2) 申請資格者

国内外の大学教員、その他研究機関に所属する研究者、これらと同等の研究能力を有すると認める者で、各研究課題に関する研究及び関連領域の研究に従事している者として。特に若手研究者、女性研究者及び外国人研究者のPIとしての参画を奨励します。なお、大学院生は代表者として応募することはできませんが、研究分担者として研究に参加することは可能です。また、学部生の研究参加については、別途御相談ください。

(3) 経費及び配分額への加算

申請対象となる経費の費目は、「旅費」及び「研究費」です。採択された研究代表者への

予算配分は行わず、本センターにおいてすべての経理を行います。詳細は、別紙2「大分大学グローバル感染症研究センター共同研究費の取扱について」を御確認ください。

また、配分額への加算について、各共同研究課題の研究代表者が以下のいずれかに該当する場合に、応募状況と審査結果を踏まえ、1課題あたり上限30万円を予算の範囲内で加算する予定です。

- ・海外機関に所属する場合
- ・若手研究者（研究開始年度の4月1日現在において39歳以下）の場合
- ・女性研究者の場合

※共同研究課題申請書には加算額を含めず記入してください。

2. 応募方法

(1) 申請書類

様式1 令和5年度（2023年度）大分大学グローバル感染症研究センター共同研究課題申請書

様式2 令和4年度（2022年度）大分大学グローバル感染症研究センター共同研究報告書（※）

※令和4年度以前から継続して令和5年度申請を行う場合のみ、様式2の報告書を、現時点（令和5年2月8日時点）での研究報告書として作成のうえ提出願います。最終版は、年度終了時（最終〆切は令和5年4月30日）に提出願います。

様式1については、本センター担当教員と、研究課題、研究計画、必要経費、来学予定期間等について事前に十分に連携をとった上で、作成願います。また、研究分担者にも事前に承諾を得ていただくことが必要です。

提出にあたっては、PDFファイルに変換したものを添付の上、メールにて下記提出先に送付ください。（※全体として4ページに収まるように作成願います。）

担当より受領確認を差し上げますので、返信を御確認ください。

【申請書提出・問合せ先】

大分大学グローバル感染症研究センター

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地

E-mail: glocal@oita-u.ac.jp

Tel: 097-586-5444

当センターホームページ: <https://www.oita-glocal.jp/>

(2) 申請書提出期限

令和5年2月8日（水）17:00 必着 期限厳守

(3) 採否

本センター共同研究委員会において、以下の項目について審査し、委員会の議を経て、センター長が採否を決定し、申請者へ通知します。なお、審査においては、応募状況や課題の性質、継続課題の場合は前年度の成果報告内容、個々の計画への適切な配分額を審査し、採択額を決定するため、採択額が申請額より減額となる場合があります。

採否は、令和5年4月初旬までに申請者へ通知する予定です。

採択された研究課題については、原則として、研究代表者の氏名と所属、研究課題名、研究成果など、本センターのホームページや年報などで公開します。

（参考）審査項目：①研究課題の学術的重要性・妥当性 ②研究計画・方法の妥当性 ③

研究課題の独創性・革新性 ④本センターの利活用 ⑤国内外や地域への貢献 ⑥経費の使途の妥当性

3. 採択後の研究代表者の責務等

(1) 研究成果報告

研究代表者は、各年度の研究期間終了後 30 日以内（最終期限：各年度 4 月 30 日まで）に「共同研究成果報告書」（様式 2）を提出してください。なお、本共同研究による成果は、原則として、本センターのホームページや年報等で公開します。また、評価のために成果報告会で発表していただく場合があります。

(2) 本研究による成果の公表

本共同研究による成果は、原則として、本学担当教員との共著での学術論文掲載や学会発表（プロシーディングが有るもの）を行っていただきます。その際は、必ず本共同研究による旨を明記してください。また、必ず謝辞に下記の記載を行ってください。

【和文】 例 1. 本研究（の一部）は大分大学グローバル感染症研究センターを利用して行った。(#####)

例 2. 本研究（の一部）は大分大学グローバル感染症研究センターの支援により行った。(#####)

【英文】 例 1. This work was (partly) conducted by the joint research program of the Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases, Oita University (#####)

例 2. This work was (partly) supported by the Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases, Oita University (#####)

注) #には採択通知による課題番号を記入してください。

なお、応募者が論文や学会などで研究成果を発表する場合は、First Author や Corresponding Author であるかどうかにかかわらず、掲載誌等にアクセプトされた時点で本センターにメール等で御一報ください。掲載・発表後、発表論文の別刷 1 部または PDF を提出してください。

共同研究期間終了後、研究成果について追跡調査の連絡をさせていただくことがあります。

また、提出された成果については、センター発行の年報、ホームページ等に掲載するほか、マスメディア等での広報を行う場合があります。広報に当たっては、事前に情報公開の可否について照会した上で調整いたします。

(3) 知的財産の取扱いについて

本共同研究によって知的財産を創出した場合は、出願等を行う前に本センター共同研究教員及び研究分担者へ連絡してください。併せて、所属機関の知財担当部署へ連絡してください。権利の持ち分、出願手続き等については、協議の上決定します。

4. その他

(1) 情報開示

受理した申請書は、外部から情報開示を求められた場合、個人の特定が可能な情報を除き、開示することがあります。研究遂行上、開示されたくない箇所（独創性を含む記載等）はアンダーライン等でマークして、申請書の余白にその旨記してください。開示時に考慮します。

(2) 個人情報等

本募集に関して取得した個人情報等については、国立大学法人大分大学の個人情報保護ポリシー等に準拠し、その保護に努めます。プライバシーポリシーの内容は、大分大学のウェブページ (<https://www.oita-u.ac.jp/13joho/kojin-policy.html>) を御覧ください。

本公募の実施については、本学の令和5年度予算の成立を前提としています。予算成立の状況により、内容、採択額に変更があり得ることを予め御承知おきください。

本センター教員の研究分野・研究活動等と連絡先

教員氏名	研究分野・研究テーマ・研究内容等
<p>西園 晃 八尋 隆明</p> <p>TEL: 097-586-5712</p> <p>E-mail: a24zono@oita-u.ac.jp (西園) takaaki-816@oita-u.ac.jp (八尋)</p>	<p>研究分野：ウイルス学、感染免疫学、渡航医学</p> <p>研究テーマ：新興・再興ウイルス感染 特に狂犬病に関する総合的研究</p> <p>キーワード：狂犬病（病原性発現機構、宿主免疫応答の解析）、顧みられない熱帯病（NTDs）、渡航医学、狂犬病、神経向性ウイルス感染症</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) 狂犬病ウイルス、重症熱性血小板減少症候群ウイルス（SFTSV）など、ヒトと動物共通の新興・再興感染症ウイルスを中心とした診断法、ワクチン、治療法の開発や流行地域での疫学調査を実施している。野外株狂犬病ウイルスを用いた感染実験を行える国内ほぼ唯一の施設であり、特に <i>in vivo</i> イメージングによる中枢神経系における病原性発現機構の解析、感染時の宿主免疫応答に関する研究を実施している。</p> <p>2) 海外渡航医療に関する臨床研究や新型コロナウイルス（COVID-19）の血清疫学調査を主とする臨床的研究も実施している。</p>
<p>山岡 吉生</p> <p>TEL: 097-586-5742</p> <p>E-mail: yyamaoka@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：消化管感染症、分子疫学</p> <p>研究テーマ：ピロリ菌感染症</p> <p>キーワード：薬剤耐性菌、ピロリ菌ゲノム解析、消化管細菌叢ゲノム解析</p> <hr/> <p>研究内容：ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）などの病原性細菌には、よく知られた病原因子や薬剤耐性因子が存在しているが、未だ判明していない病原因子や薬剤耐性因子も存在している。これらを解明するためには、次世代シーケンサーを用いた全ゲノム解析が必要で、本学では、バクテリアゲノムワイド関連解析（GWAS）、さらには遺伝子欠損株作出などによる機能解析を行っている。また、現在世界約30か国から集めた胃粘膜検体やピロリ菌を保有しており、胃内の細菌叢の遺伝子の地域による違いがどのように病原性などに関与しているかを研究している。</p>

<p>太田 正之</p> <p>TEL: 097-586-5401</p> <p>E-mail: ohta@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：肥満外科、門脈圧亢進症、肝胆膵外科、渡航医学 研究テーマ：肥満外科手術と腸内細菌・感染症、やさしい日本語 キーワード：肥満外科手術、減量・代謝改善手術、腸内細菌、COVID-19、渡航医学、インバウンド、医療通訳、やさしい日本語</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) 我が国でも広く行われている肥満外科手術(減量・代謝改善手術)後の減量効果や代謝改善効果と腸内細菌叢の変化やCOVID-19などの感染症の影響については明らかになっていない。臨床的研究や基礎的研究により本テーマを明らかにする研究を実施している。</p> <p>2) 我が国には 250 万人以上の在住外国人が暮らしており、日本語で多くはコミュニケーションをとっている。しかし病院受診時には理解に苦しむ場面に遭遇している。受診受付などの窓口業務などで「やさしい日本語」やツールを導入し、その効果を検証している。</p>
<p>三室 仁美 三好 智博</p> <p>TEL: 097-586-5630</p> <p>E-mail: mimuro@oita-u.ac.jp (三室) miyoshit@oita-u.ac.jp (三好)</p>	<p>研究分野：細菌感染生物学 研究テーマ：粘膜感染病原細菌の感染機構解明 キーワード：ピロリ菌、赤痢菌、口腔内細菌、消化管病原細菌、病原性発現機構、宿主応答、薬剤耐性、VBNC</p> <hr/> <p>研究内容：ピロリ菌や腸管病原性大腸菌などの消化管感染病原細菌に関し、感染から発症までの間に菌体因子と相互作用する宿主細胞群や宿主因子群の全容の解明に取り組んでいる。動物感染モデルとシングルセル解析設備、ゲノム解析を利用した、病原細菌感染の病態制御に関わる細胞群や ncRNA、タンパク質、糖鎖、脂質等因子群の同定、および検査法・治療法開発を実施している。さらに、消化管粘膜感染病原細菌の薬剤耐性菌対策に関連研究、Viable but not culturable (VBNC)に関する研究、病原細菌の感染成立における常在細菌叢の役割を解明する研究を実施している。</p>

<p>河本 聡志</p> <p>TEL: 0562-93-2486</p> <p>E-mail: satoshik@fujita-hu.ac.jp</p>	<p>研究分野：ウイルス学、分子疫学</p> <p>研究テーマ：ロタウイルス、下痢症ウイルス、新興・再興感染症</p> <p>キーワード：リバーシジェネティクス、増殖・病原性発現機構、ワクチン・ベクター、次世代シーケンサー、ワンヘルス</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) ロタウイルスのリバーシジェネティクス系を用いた解析（増殖・病原性の基礎的研究、ワクチン・ベクター開発）</p> <p>2) ウイルスの分子疫学（分子疫学研究による流行株の性状解析）</p> <p>3) 分子生物学的／ウイルス学的手法に基づく新興・再興感染症の研究</p>
<p>平松 和史</p> <p>TEL: 097-586-5406</p> <p>E-mail: hiramats@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：感染症内科学、感染制御学、呼吸器感染症内科学</p> <p>研究テーマ：緑膿菌感染症、薬剤耐性菌感染症</p> <p>キーワード：薬剤耐性菌、緑膿菌、院内感染症、抗菌薬に依存しない感染症治療</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) 多剤耐性緑膿菌やカルバペネム耐性腸内細菌科細菌、バンコマイシン耐性腸球菌など各種薬剤耐性菌の耐性機序や薬剤耐性獲得機構を明らかにする研究を実施している。</p> <p>2) 病院内での伝播経路や環境、動物などでの耐性菌の広がりを、分子生物学的技法を用いて検討している。</p> <p>3) 薬剤耐性菌に対する新しい治療法、治療薬の開発や抗菌薬に依存しない感染症の治療法や予防法に関する検討を行っている。</p>

<p>上村 尚人</p> <p>TEL: 097-586-5952</p> <p>E-mail: uemura@oita- u. ac. jp</p>	<p>研究分野：臨床薬理学および薬物治療薬、臨床薬効評価、早期臨床開発 研究テーマ：感染症を含む難治性疾患の新規治療薬、ワクチンの研究 開発</p> <p>キーワード：ウイルス感染症、顧みられない熱帯病（NTDs）、トラン スレーショナルサイエンス、ワクチン、抗ウイルス薬、非臨床試験、 臨床開発</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) 新興・再興感染症、特に新型コロナウイルスやインフルエンザを 含む病原性 RNA ウイルスに対して有効な抗ウイルス薬の非臨床・ 臨床開発研究を実施している。</p> <p>2) 狂犬病をはじめとした、顧みられない熱帯病(neglected tropical diseases: NTDs) 治療薬の非臨床・臨床開発研究を実施している。</p>
<p>緒方 正男</p> <p>TEL: 097-586-6275</p> <p>E-mail: mogata@oita- u. ac. jp</p>	<p>研究分野：血液内科学、造血幹細胞移植、ウイルス感染症 研究テーマ：免疫不全患者におけるウイルス感染症の解明とその制 御法の確立</p> <p>キーワード：HHV-6 感染メカニズムの解明、免疫不全関連ウイルス感 染症の克服</p> <hr/> <p>研究内容：同種造血幹細胞移植などに伴う免疫不全は多種多様なウ イルス感染症などの発症に関連する。その早期診断は困難であり、治 療薬の選択も限られている。免疫不全患者における種々のウイルス 感染症やトキソプラズマ感染症の診断や治療法の開発に取り組んで いる。特にヒトヘルペスウイルス 6 による脳炎の病態、および治療・ 予防法の確立に繋がる研究を実施している。</p>

<p>小林 隆志</p> <p>TEL: 097-586-5700</p> <p>E-mail: kansen@oita- u. ac. jp</p>	<p>研究分野：免疫学、シグナル伝達、寄生虫学、ウイルス学</p> <p>研究テーマ：炎症の免疫制御機構、アルボウイルス、寄生虫に対する免疫応答</p> <p>キーワード：宿主免疫応答、病原性因子と病原性発現機構、感染防御のイメージング、遺伝子組換えマウス、実験用病原体</p> <hr/> <p>蚊媒介性ウイルス（ジカウイルス、チクングニアウイルス）、腸内細菌（Citorobacter rodentium）、寄生虫（トキソプラズマ、リーシュマニア、アニサキス）を中心とした病原性微生物への感染により誘導される宿主免疫応答に焦点を当て、疾患が引き起こされる発生病序の解明に取り組んでいる。特に、免疫応答に関する遺伝子の変異マウスを用いた生体レベルでの感染免疫応答の解析に加え、分子細胞レベルでの解析も行い宿主の免疫応答を総合的に理解する。一方、病原性を規定する微生物側の因子の同定を試みることで、微生物の感染から病態発症に至る機序の解明も進める。さらに、ライトシート蛍光顕微鏡を用いた感染防御のイメージングを試み、感染免疫応答の包括的理解を目指す。</p>
<p>一二三 恵美</p> <p>TEL: 097-554-6003</p> <p>E-mail: e-hifumi@oita- u. ac. jp</p>	<p>研究分野：生命科学、 生物工学、抗体工学</p> <p>研究テーマ：新規医薬品開発を目指した抗体酵素研究</p> <p>キーワード：抗体酵素、抗体鎖、抗ウイルス作用</p> <hr/> <p>研究内容：近年の分子標的薬、中でも抗体医薬品の発展は目覚ましい。将来、抗体が酵素作用をもって抗原を分解できればさらなる高付加価値が生まれる。最近、抗体の超可変領域内に、ある変異を導入する事で抗体に酵素作用を持たせる新手法を見出した。この手法をベースにして、インフルエンザウイルスや新型コロナウイルスの保存領域を標的として、感染能を消失させる抗体酵素の作製を進めている。これにより、ウイルスに変異が生じても適切に対応出来る新型医薬・予防薬の開発を行うと共に、本手法の更なる技術展開を図る。</p>

<p>伊波 英克</p> <p>TEL: 097-586-5712</p> <p>E-mail: hiha@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：分子腫瘍学・免疫生物学</p> <p>研究テーマ：成人 T 細胞白血病 (ATL) の新規診療技術の開発、HTLV-1/STLV の分子疫学調査</p> <p>キーワード：ATL 発症危険度、バイオマーカー、分子標的治療、HTLV-1/STLV-1 分子疫学</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) ヒトレトロウイルス (HTLV-1) の感染で発症する難治性の血液腫瘍成人 T 細胞白血病 T 細胞白血病 (ATL) の診療効果を改善する新規バイオマーカーの同定と分子標的薬を活用した診療技術開発。</p> <p>2) ヒト (HTLV-1) / 霊長類 (STLV) レトロウイルスの分子疫学調査。特に東南アジアとオーストラリアに限局する HTLV-1-C 亜種と類縁 STLV の疫学調査。</p>
<p>小宮 幸作</p> <p>TEL: 097-586-5804</p> <p>E-mail: komiya1@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：呼吸器内科、呼吸器感染症</p> <p>研究テーマ：抗酸菌感染症、抗菌薬適正使用</p> <p>キーワード：肺結核及び非結核性抗酸菌症の病態・診断・治療、抗菌薬適正使用</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) 世界的にも肺結核に罹患する世代に変化がみられており、それらを鑑みた肺結核の病態、さらには新たな診断および治療に関する研究を実施している。</p> <p>2) 非結核性抗酸菌症は近年増加傾向にあり、希少菌を含め感染拡大に関する機序は明らかにされていない。さらには、従来ヒト-ヒト感染はしないとされていたものも、その可能性を示す報告が散見されている。非結核性抗酸菌感染における病態解明に関連する研究を実施している。</p>

<主要な設備>

	機器名称	メーカー名	型番	主な用途
1	ライトシート蛍光顕微鏡	Zeiss	Lightsheet 7	生細胞イメージング、透明化処理した器官、3D細胞培養、モデル小型生物、卵母細胞等のイメージング
2	共焦点レーザー顕微鏡	Olympus	FV3000-L4H2-BD-3	生細胞・組織のイメージングやタイムラプスイメージング
3	リアルタイムPCRシステム	Roche Diagnostics	LightCycler 96	PCRでのDNA増幅量をリアルタイムでモニターして解析、8連チューブと96ウェルプレートに対応、FAM、HEX、Texas RED、Cy5のマルチ検出可能
4	次世代シーケンサー (Long Read)	Oxford Nanopore Technologies	GridION X5	1度に最大5検体までラン可能、塩基配列精度の高いロングリード(数kb~数百kb)のシーケンス、全ゲノムまたは全トランスクリプトーム解析
5	次世代シーケンサー (Short Read)	Illumina	iSeq 100	ショートリード長のシーケンス
6	シングルセル解析装置	10x Genomics	Chromium iX	数百~数万個の細胞のシングルセルトランスクリプトーム解析
7	全自動キャピラリー泳動装置	QIAGEN	QIAxcel Advanced System	全自動マルチキャピラリーDNA/RNA電気泳動装置 最大96サンプル、0.1ng/μL以上の核酸濃度検出、デジタルデータ出力
8	生体分子間相互作用解析システム	Sartorius	Octet RED96e Systems	96well plateでのカイネティクス解析、定量、アフィニティ解析

※1は令和5年2月導入予定

<主に取り扱いができる病原体>

細菌：ピロリ菌、赤痢菌、(結核菌)

ウイルス：狂犬病ウイルス、SFTSウイルス、ロタウイルス、蚊媒介ウイルス(デングウイルス、ジカウイルス、チクングニアウイルス)

寄生虫：トキソプラズマ、リーシュマニア

(別紙2)

大分大学グローバル感染症研究センター共同研究費の取扱いについて

1. 所要経費の取扱い

- (1) 本共同研究費は、本センターまでの旅費や、当該研究課題に使用する消耗品の購入等に充てる費用となります。
- (2) 共同研究に必要な経費は、予算の範囲内において本センターから支出します。

2. 支出できる範囲

■旅費

- (1) 共同研究推進のため、共同研究を目的とした本センターへの出張を1回以上計画してください。
- (2) 本共同研究の成果を学会で発表する際の旅費の計上は可能です。単なる学会参加の旅費は計上できません。
- (3) 研究代表者、研究分担者以外の旅費を支出することはできません。
- (4) 本センター対応教員の旅費を支出することはできません。
- (5) 旅費については、国立大学法人大分大学旅費規程に基づき算出し、精算払（銀行振込）を原則とします。
- (6) 本センターへの出張における交通費については、研究代表者及び研究分担者の勤務先所在地（または居住地のいずれか近いほう）から本センター間の移動について支給対象となります。

■研究費

(1) 消耗品

消耗品とは、本センターとの共同研究に直接使用するもので、単価10万円未満の物品が該当します。単価10万円以上の物品であっても、当該共同研究を遂行するために必要不可欠なソフトウェアや、およそ1年以内に消耗する物品（試薬等）については該当します。ただし、以下の(a)～(d)に掲げるものは除きます。

- (a) 各所属機関で整備すべき設備・備品（事務机、椅子、本棚、実験台等）
- (b) 汎用的な事務機器（パソコン、プリンター等）
- (c) 金券、タブレット端末、デジタルカメラ等の換金性の高い物品
- (d) 書籍

(2) 印刷費

共同研究によるサポートを受けた旨を明記したものに限り、別刷代・投稿料も可能です。（年度内に納品できるものに限りです。）

(3) 雑役務費

英文校正費用、受託解析費用、郵送料が対象となります。

3. 検収権限の委託について

本共同研究費で購入する物品等を申請者の所属機関に直接納品するため、本学の規程に定める「検収権限の委託の手続き」が必要となります。（※別紙4（共同研究費執行手続きの流れ）を御確認ください。検収権限の委託に関して、本学の経理担当者から手続きに関する御連絡をさせていただきますので、（別紙3）により貴機関の検収御担当部局をお知らせくださるようお願いいたします。）

なお、貴機関の検収体制確認の結果、検収権限の委託ができない場合は、その旨御連絡いたします。

採択後、速やかな研究開始・経費執行を行うため、申請者所属機関の検収体制について事前の御確認をお願いします。

4. 研究費執行の流れ

本共同研究経費については、申請者所属機関への予算配分（配分先機関で予算執行すること）を想定していません。そのため、以下の流れで執行していただくこととなります。※別紙4（共同研究費執行手続きの流れ）も併せて御確認ください。

例) 消耗品の購入

1) 購入予定物品の物品購入等申請書（様式3）と見積書を、グローバル感染症研究センターへお送りください。購入にあたっては、納品までに時間がかかる場合もありますので、日程に余裕をもって御連絡ください。

（送付先メールアドレス：glocal@oita-u.ac.jp）

2) 本学経理課調達グループから業者へ発注を行います。

3) 指定の場所へ納品がありましたら、各機関で定める手続きに沿って、検収をお願いします。なお、各機関での検収にあたっては、あらかじめ手続き（検収権限の委託）を経ておく必要があります。

4) 研究者または納入業者から本学経理課調達グループへ、見積書・納品書・請求書の原本を郵送にてお送りください。

※納入業者を介さず、宅配便等で直接研究者に納品される場合は、納品後、研究者が研究機関による検収印の押印と受領者の押印を確認し、見積書・納品書（検収印を押印したもの）・請求書の原本の三点を本学経理課調達グループへ、郵送にてお送りください。

5) 本学から納入業者へ支払いを行います（納入月の翌月払）

※令和5年度においては、原則として令和6年（2024年）2月末日までに経費執行してください。

【見積書・納品書・請求書の提出先】

〒870-1192 大分県大分市大字旦野原 700 番地
大分大学財務部経理課調達グループ

(別紙 3)

検収権限委託に係る連絡票

経費執行者（貴機関の共同研究代表者）

所属：

職名：

氏名：

検収担当部局

機 関 名	
担 当 部 局 名	
担 当 者 名	
住 所	
電 話 番 号	
メールアドレス	

※検収権限の委託に関して、本学の経理担当者から手続きに関する連絡をいたします。

検収マニュアルの有無

あり（※マニュアル等を添付願います。）

なし

【連絡先】

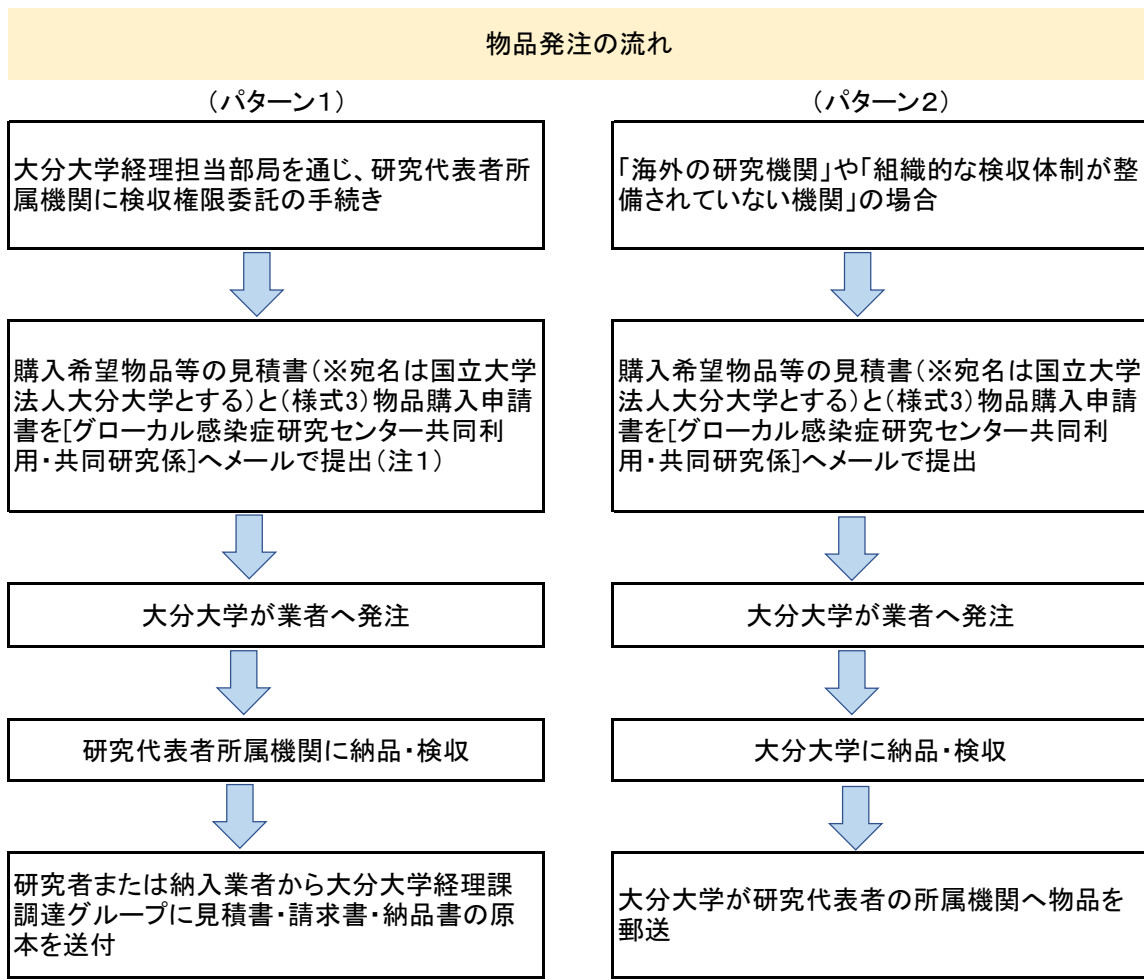
大分大学 グローカル感染症研究センター

共同利用・共同研究係

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘 1 丁目 1 番地

TEL : 097(586)5409 / E-mail : glocal@oita-u.ac.jp

【大分大学グローバル感染症研究センター共同研究費 執行手続きの流れ】



注1) 様式3「物品購入依頼書」を見積書とともに**納品希望日の7営業日前**までに提出してください。
(海外業者発注等の特殊な場合を除く)

※納入業者を介さず、宅配便等で直接研究者に納品される場合は、納品後、研究者が研究機関による検収印の押印と受領者の押印を確認し、大分大学財務部経理課調達グループへ①見積書、②納品書(検収印を押印したもの)、③請求書の原本の三点を郵送にてお送りください。

※円滑な研究実施のために、検収権限委託手続きへの御協力をお願いいたします。

出張手続きの流れ

出張旅費申請書(様式4)を[グローバル感染症研究センター 共同利用・共同研究係]へメールで提出



大分大学で旅行依頼書を作成



研究代表者等が出張



出張の際、出張者は旅費の支払いに必要な書類を大分大学に提出



大分大学が出張者に旅費支払い(口座振込)

【メール送付先: glocal@oita-u.ac.jp】

【出張前】

- ①(様式4)出張旅費申請書を、出発日の**7営業日前までに**、グローバル感染症研究センター共同利用・共同研究係へ提出してください。
- ②旅費の口座振込みのため、「口座振込依頼書」を記入・押印の上、預金通帳の写し(口座名義及び口座番号の記載ページ)又はキャッシュカードの写しと併せて、事前にPDFファイルにて送付してください。押印済の本紙は、出張の際に提出してください。

【出張当日】

- ③旅費精算のため、下記書類等を提出してください。
 - 1) 航空機利用の場合(バック旅行を含む)、航空機に搭乗したことが証明できるもの(搭乗券、半券、保安検査場通過の際に発行されるレシート状のもの、航空会社が発行する搭乗証明書のいずれか1つ。ただし、モバイル搭乗券は無効)
 - 2) 領収書または支払を証明する資料
※宿泊費・日当は、本学の規定に基づき定額を支給するため、宿泊に係る領収書は不要です。
 - 3) 口座振込依頼書(押印済の本紙)
- ④本学作成の旅行依頼書に、印鑑またはサインをお願いいたします。

令和5年度(2023年度)大分大学グローバル感染症研究センター
共同研究課題申請書

A) 共同研究課題	新規・継続 採択番号：
B) シーズ発掘課題	新規・継続 採択番号：

※該当課題に○を付けてください。(継続の場合は採択番号を記入してください。)

大分大学グローバル感染症研究センター長 殿

令和 年(西暦 年) 月 日

申請者(代表者)	(フリガナ)		
生年月日・性別	年 月 日	年齢 歳(注1)	性別： 男 ・ 女 ・ 非回答
所属機関名			
職名			
連絡先住所	〒		
電話・FAX	電話：	FAX：	
E-mail			
本センター 対応教員(注2)	氏名：		
	研究分野：		

(注1) 令和5年(2023年)4月1日現在満年齢を記入してください。

(注2) 研究分野は、公募要項P4以降の「本センター教員の研究分野・研究活動等と連絡先」の中から選択してください。

1. 研究課題	(和文)			
	(英文)			
2. 研究期間	令和 年(西暦 年) 月 日～令和 年(西暦 年) 月 日			
3. 研究組織				
(フリガナ) 研究者氏名	生年月日 性別	所属・職名	研究分担(役割分担を記入してください) ※参画者全員を記入してください。	連絡先 (TEL・E-mail)
①(研究分担者)	年 月 日 男・女・非回答			
②	年 月 日 男・女・非回答			
③	年 月 日 男・女・非回答			
④	年 月 日 男・女・非回答			

本センター 教員氏名	分野等名・職名	研究分担（役割分担を記入してください。）
①		
②		
<p>4. 研究概要（当該研究を遂行するために必要な経費全体に対して、本共同研究費の占める割合等がわかるように記入してください。）</p>		
<p>5. 研究目的（研究の学術的背景、明らかにしようとする点、研究の意義等について具体的に記入してください。）</p>		
<p>6. 研究経過（当該研究の進捗状況を記入してください。（新規申請含む）</p>		

<p>7. 研究内容（当該研究と本センターとの関係性、本センターの有形無形の資産をどのように活用し研究を進めるかを明記してください。※継続課題の場合は、これまでの進捗状況と今年度の計画及び次年度以降の計画概要も記入してください。）</p>
<p>8. 期待される効果（継続課題の場合は、これまでの研究成果も含めて記入してください。）</p>
<p>9. 研究業績（本研究に関連する最近3年間の主要な研究論文：論文名、著者名、掲載誌名、巻、頁、発表年（西暦）について記入願います。また、過年度からの継続内容で申請する場合は、これまでの実績を簡潔にまとめ、それをどのように展開していくか記入してください。）</p>
<p>10. 本研究に関連した研究資金の状況（資金（事業）名、交付元機関名、金額、研究期間等（申請中も含む））（特にA）共同研究課題に関しては、全体の計画の一部を本研究費で実施する場合には必ず補完する研究費の出処を明記してください。）</p>

所要経費 令和5年度 (2023年度)	旅費	千円	(内訳) (例) 研究代表者〇〇 共同研究及びセミナー開催のため東京一大分7月1泊2日旅費 52,000円, 研究分担者〇〇大分での実験のため東京一大分9月2泊3日旅費 64,500円
	研究費	千円	(内訳) (例) 〇〇実験用試薬 12,000円, 検体搬送費用 15,000円
	合計	千円	

※申請額の上限は、A) 共同研究課題 100万円、B) シーズ発掘研究 30万円とします。(加算分は含めず記入してください。)

※申請書は全体として4ページに収まるように作成してください。

※赤字部分(例)等は提出時に削除願います。

令和5年度(2023年度)大分大学グローバル感染症研究センター
共同研究 成果報告書

国立大学法人大分大学グローバル感染症研究センター長 殿

採択番号： _____

申請者に関する事項	氏 名	(フリガナ)	
		(和)	
		(英)	
	所属機関名	(和)	
		(英)	
	部 局 名	(和)	
		(英)	
職 名	(和)		
	(英)		
所属機関住所		〒	
申請者連絡先	TEL	E-mail	
報告内容の公開制限		<input type="checkbox"/> 特に希望無し <input type="checkbox"/> _____年____月以降公開可	
※本報告書に記載の内容について特許出願等の理由により公開時期の希望がある場合に記載してください。			

1. 研究課題名	
和 名	
英 名	
2. 本センター 担当教員	
3. 研究期間	年度 ~ 年度：(年間)
4. 研究分野	
5. 研究経費	交付決定額： 円

7. 研究組織（研究分担者） ※必要に応じて行を追加してください。上段：和／下段：英	
氏 名	所属機関・部局・職名
①(和)	(和)
(英)	(英)
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	

8. 令和5年度（2023年度）年度研究成果の概要

（本共同研究で得られた研究成果の概要やその方法について、具体的に記載してください。本センターの主要な施設・設備を使用した場合は、当該施設等が研究成果にどのように貢献したか等について記載してください。適宜、図表・見出しを配置していただいても構いません。）

（和文：600～800字を目安に記入）

(英文：200～300wordを目安に記入)

9. 本共同研究による研究業績 (本共同研究の成果により、研究代表者もしくは研究分担者、指導大学院生等が令和5年度(2023年度)において発表した論文、学会発表(プロシーディングが有るもの)、著書等について、査読付き論文等に限らず幅広く記載してください。ただし、総説は対象に含めませんが、学内の紀要に発表された論文・総説は除きます。) ※国際共著論文とは、国内の研究機関に所属する者と国外の研究機関に所属する者の共著論文を指します。

[謝辞に本共同研究の成果である旨の記載がある論文]

※SCI論文(JCR(Journal Citation Reports)データベースに収録された学術雑誌に掲載された論文)は赤字、国際共著論文は先頭に○を付してください。

[上記以外の論文] ※SCI論文は赤字、国際共著論文は先頭に○を付してください。

[学会発表]

[著書]

10. 本共同研究の波及効果 (本共同研究による令和5年度(2023年度)の波及効果(外部資金の獲得や学会賞受賞、関連コミュニティ、特許出願等)について記載してください。)

[外部資金の獲得：資金制度名、研究課題名、機関(省庁・独法等)、金額、期間、代表・分担の別]

[学会賞等の受賞]

[本共同研究が密接に関係する学会・研究会等名称(※複数回答可)]

[特許権等の取得：発明の名称、出願番号・特許番号等]

11. 本共同研究が発展したプロジェクト (本共同研究が発展したプロジェクトについて、そのプロジェクト名、財源、期間、簡単な概要を記載してください。)

[プロジェクト名、財源、期間、簡単な概要]

12. 本センター利活用の状況 (本共同研究において、本センターの有形無形資産をどのように活用して成果を得たか概要を記載してください。)

13. 本共同研究により本センターを利用して学位を取得した大学院生 （本共同研究により本センターの施設・設備、データベース、資料等を利用して令和5年度（2023年度）中に学位を取得した大学院生がいる場合、その氏名等を記載してください。） [博士号取得者（氏名、大学・研究科名、国籍）] [修士号取得者（氏名、大学・研究科名、国籍）]	
14. セミナー開催の有無 （本共同研究の成果について、グローバル感染症研究セミナー実施の場合は下記1. にチェックのみ記載してください。それ以外のセミナーの場合は2. にチェックを入れ、タイトル、概要、セミナーの対象者と参加人数を記載してください。） <input type="checkbox"/> 1. 本センターと協力してグローバル感染症研究セミナーを実施した。 <input type="checkbox"/> 2. それ以外のセミナーを実施した。 （概要） <input type="checkbox"/> 3. セミナーは実施していない。	
15. 予算の使途 （申請時の使途予定内訳と採択された予算の実際の使用内訳を記載し、 <u>当初予定から50%を超える使途変更があった場合は、その理由を記載してください。</u> ）	
<当初予定>	旅費 円 (内訳) 研究費 円 (内訳) 合計 円
<使用実績> 旅費	(内訳)
消耗品	(内訳)
その他	(内訳)
当初から使途変更があった場合その理由	

16. 本共同研究の自己評価（和文：600～800字を目安に記入）

[達成度]

- S. 当初の想定以上の成果が挙げられた
- A. 当初の想定どおりの成果が挙げられた
- B. 当初の想定ほどではないが一定の成果が挙げられた
- C. 当初想定していた成果はほとんど挙げられなかった